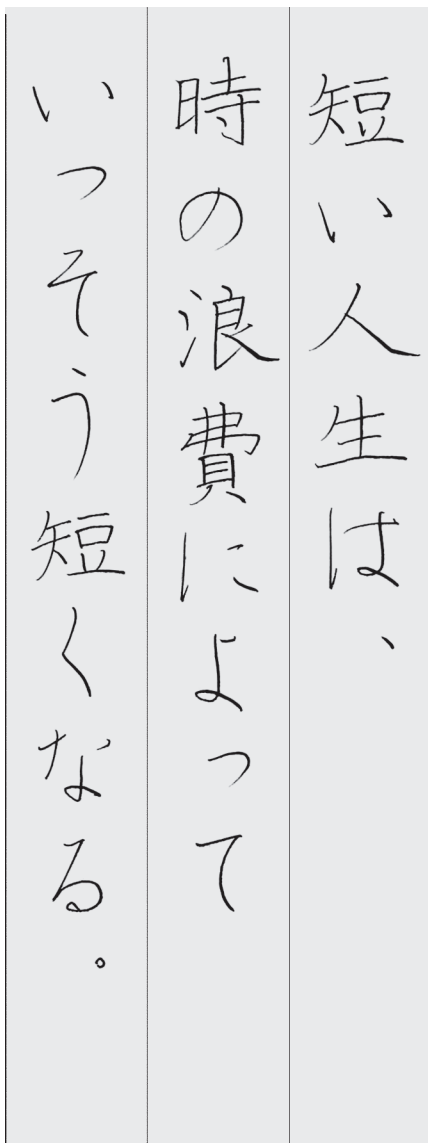


憲照先生の手本ア・ラ・カルト(28)  
(à la carte)

締切り 四月二十一日(必着)

昭和48年5月



つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎本会は、今年で創立六十八周年を迎えます。まだまだ世の中には、新型コロナウイルス禍の影響で、世界中が不安の中にいます。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年同様『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。

お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。同一課題を楷・行・草の順で繰り返し、掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

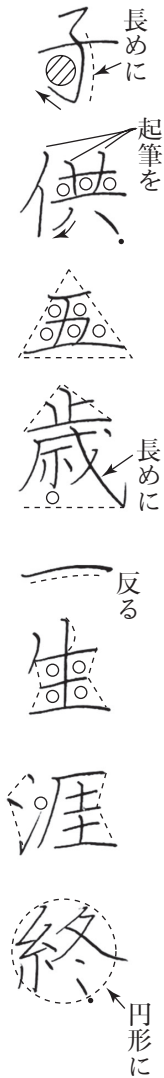
- 〔作品の出し方〕
- ▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
  - ▼用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
  - ▼出品制限の対象とはなりません。
  - ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
  - ※不明な点は無記入でも結構です。
  - ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
  - ▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願いします。

★短い人生は…(書体＝楷書)  
サミュエル・ジョンソン  
(二七〇九〜二七八四)  
イギリスの詩人・批評家  
時間を無駄遣いすることは、人生において使える時間を短くすることである。それは結局、人生を短くすることに等しい。  
どんな忙しい時でも、目的意識を持って、後悔するような時間の使い方をしないようにしたいものです。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。



新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

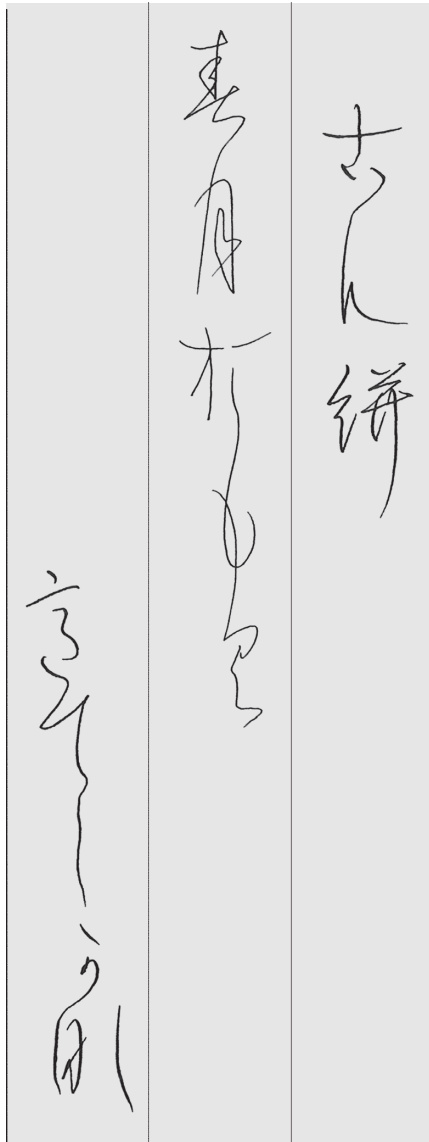
- ◆5月課題予告(行草または草書)  
財宝も地位も  
愛に比べれば  
塵芥のようなもの
- ▼教範・書範||行書
- ▼師範||楷書

★子供は…(書体||楷書)  
フレibel ドイツの教育家  
子供は五歳までに倫理観の基本がで  
きあがり、その後の教育は主として知  
識を得ることにとどまると、幼児教育  
の重要性を強調した。  
彼は早くから子供の教育に関心をもち、一八四〇年四十八歳のとき世界初の幼稚園を開設した。今日各国の幼稚園で用いられている遊具は、ほとんどフレibelの考案したものの応用だと言われている。

★他人の…(書体||行書)  
西洋のことわざ  
世間には、人の欠点や失敗など見聞きすると、あからさまや陰にまわってこれを非難したり、嘲笑したりする人がありますが、いやしくも教養ある人はそうであってはいけない。  
日本のことわざの「人のふり見てわがふり直せ」と同じく、人間的に成長していくために、人の過失や失敗など見聞きしたら、自分も同じことを犯さないよう自戒すべきである。

準初段から六段まで

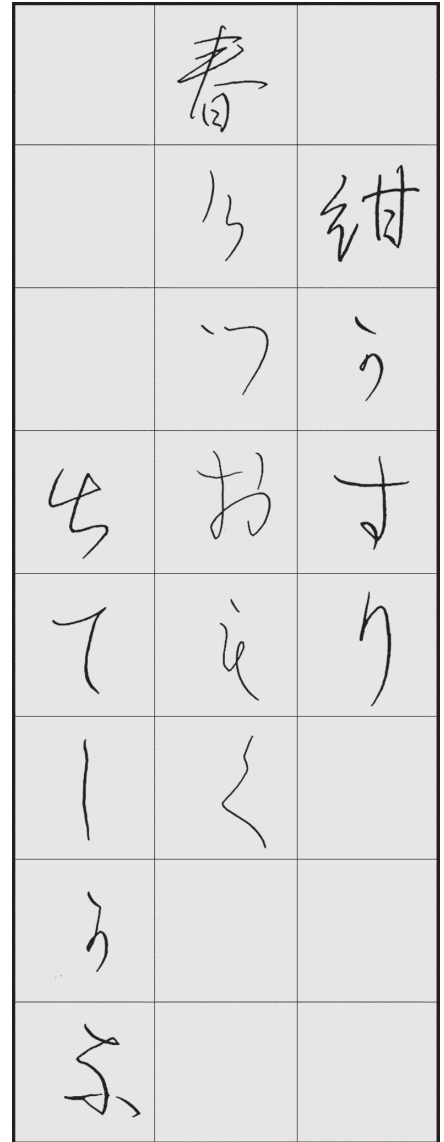
新入から1級まで



紺<sup>古</sup>緋<sup>ん</sup>春<sup>於</sup>月<sup>も</sup>重<sup>具</sup>く<sup>意</sup>出<sup>可</sup>で<sup>那</sup>し<sup>可</sup>か<sup>那</sup>な

紺<sup>可</sup>緋<sup>寸</sup>春<sup>介</sup>月<sup>川</sup>重<sup>お</sup>く<sup>毛</sup>出<sup>久</sup>で<sup>可</sup>し<sup>奈</sup>か<sup>奈</sup>な

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



た なか き こう 書  
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

た なか き こう 書  
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

紺<sup>こん</sup>緋<sup>が</sup>春<sup>す</sup>月<sup>り</sup>重<sup>し</sup>く<sup>ん</sup>出<sup>げ</sup>で<sup>つ</sup>し<sup>い</sup>か<sup>い</sup>な

(飯田龍太)

〔句解〕山の端から春の満月が昇ってきた。それが潤んだような暖かみのある黄色をして、しずしずといかにも重たげに、全容を現した。その春月に対し、身に着けている紺緋がいかにもふさわしく、匂いたつようである。

〔鑑賞〕昭和二十六年作。この句の斬新な美しさは、〈紺緋〉で切り、その〈紺緋〉と下の〈春月〉とのモニタージュ(組立て)的效果にある。また下五を〈かな〉の詠嘆で重々しく止めた声調は、一句を重厚にしている。

〔古筆参考〕

可<sup>か</sup> り り り  
毛<sup>も</sup> も も も  
具<sup>く</sup> り り り  
奈<sup>な</sup> な な な  
那<sup>な</sup> な な な

〔解説〕〈春月〉の三・四画目と〈月〉の三・四画目は、同じ横線を書かないで、変化させて書いて下さい。

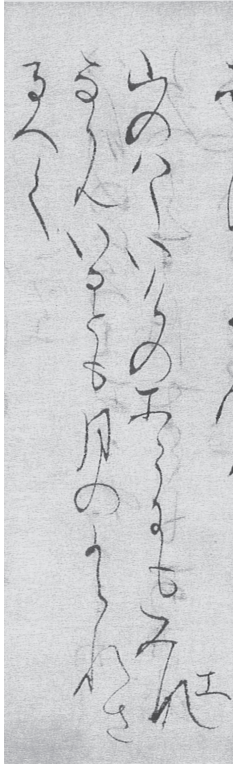
◆5月課題予告

腸<sup>は</sup>に<sup>わ</sup>春<sup>た</sup>滴<sup>した</sup>る<sup>た</sup>や<sup>た</sup>粥<sup>た</sup>の<sup>た</sup>味<sup>た</sup>

(夏目漱石)

〔古筆参考〕

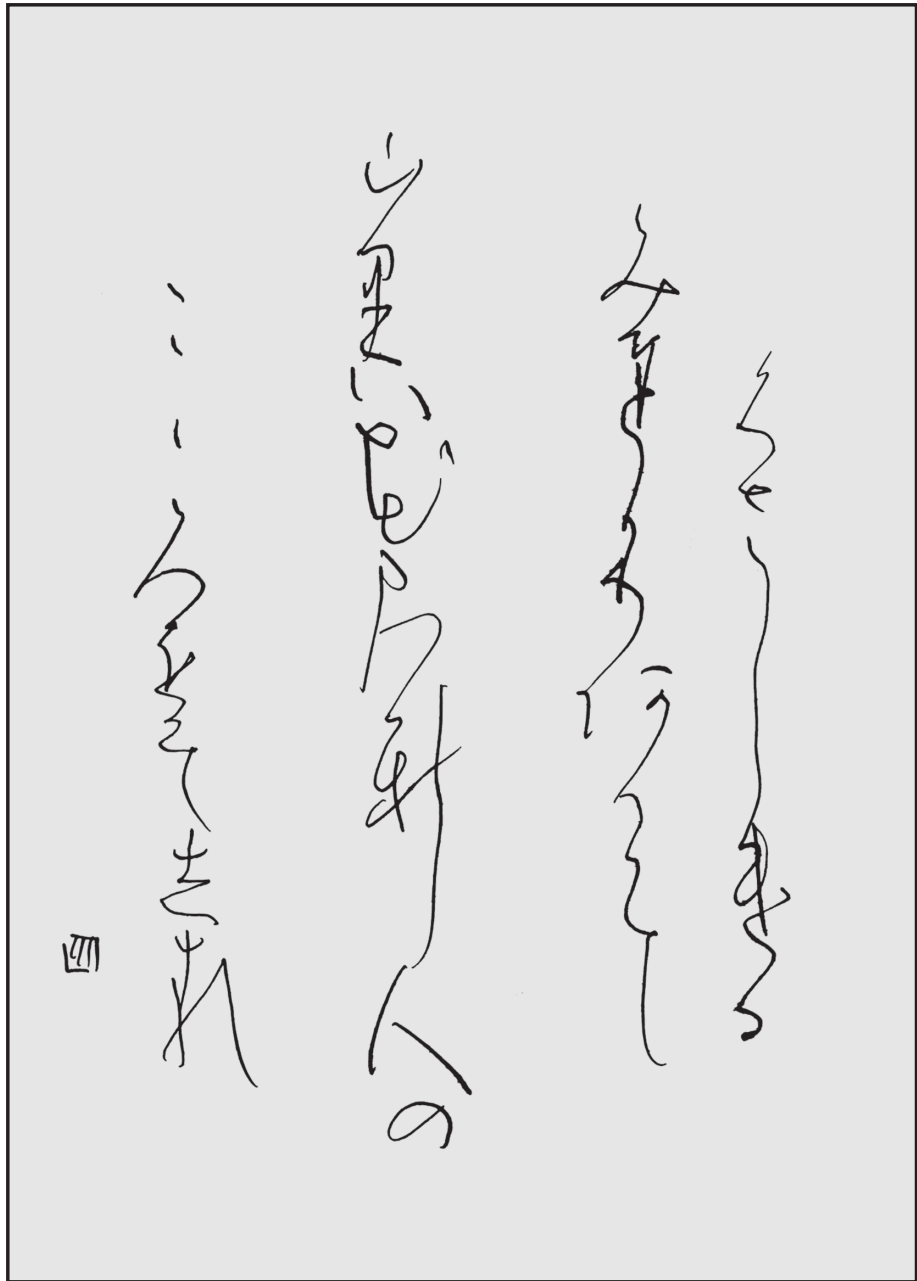
なかつかさしゅう  
中務集



山のはくいけのそこにもみな  
なぐんいるとも月のかくれざ  
るべく

締切り 四月二十一日（必着）

築瀬舟香書

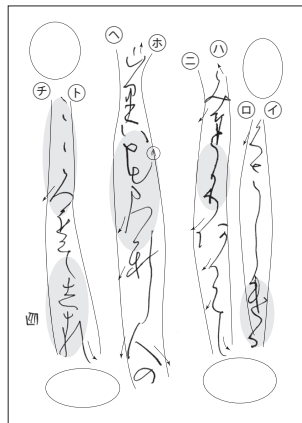


草しげる道かりあけて山里は  
花見し人の心をぞ知る

〔歌意〕山里では夏草の繁茂した道を刈り開いて、これが春に桜狩りに来た人の通った道なのだ、今は人の訪れも稀な道に人の心を知ることである。

〔出典〕新潮日本古典集成

〔解説〕



- ・ ①と②、①と③、④と⑤、④と⑥、④と⑦、④と⑧、④と⑨、④と⑩、④と⑪、④と⑫、④と⑬、④と⑭、④と⑮、④と⑯、④と⑰、④と⑱、④と⑲、④と㉑、④と㉒、④と㉓、④と㉔、④と㉕、④と㉖、④と㉗、④と㉘、④と㉙、④と㉚、④と㉛、④と㉜、④と㉝、④と㉞、④と㉟、④と㊱、④と㊲、④と㊳、④と㊴、④と㊵、④と㊶、④と㊷、④と㊸、④と㊹、④と㊺、④と㊻、④と㊼、④と㊽、④と㊾、④と㊿
- ・ ○ 余白大切。
- ・ ● 密の動き大切。
- ・ ◁ の方向大切。
- ・ 面構成大切。

◆5月課題予告

掬ぶ手に涼しき影を慕ふかな  
清水に宿る夏の夜の月

締切り 4月21日(必着)

はや穀雨の季節を迎え、庭をいろ  
どる花々にも、今日は静かな雨が  
降り注いでおります。かねてより  
ご依頼のありました条幅手本は、  
今月中に用意できると思います  
ので、もう少しお待ち下さい。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。  
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

はや穀雨の季節を迎え、庭をいろ  
どる花々にも、今日は静かな雨が  
降り注いでおります。かねてより  
ご依頼のありました条幅手本は、  
今月中に用意できると思います  
ので、もう少しお待ち下さい。

横書き課題

お 尾 郷 翠 光 書

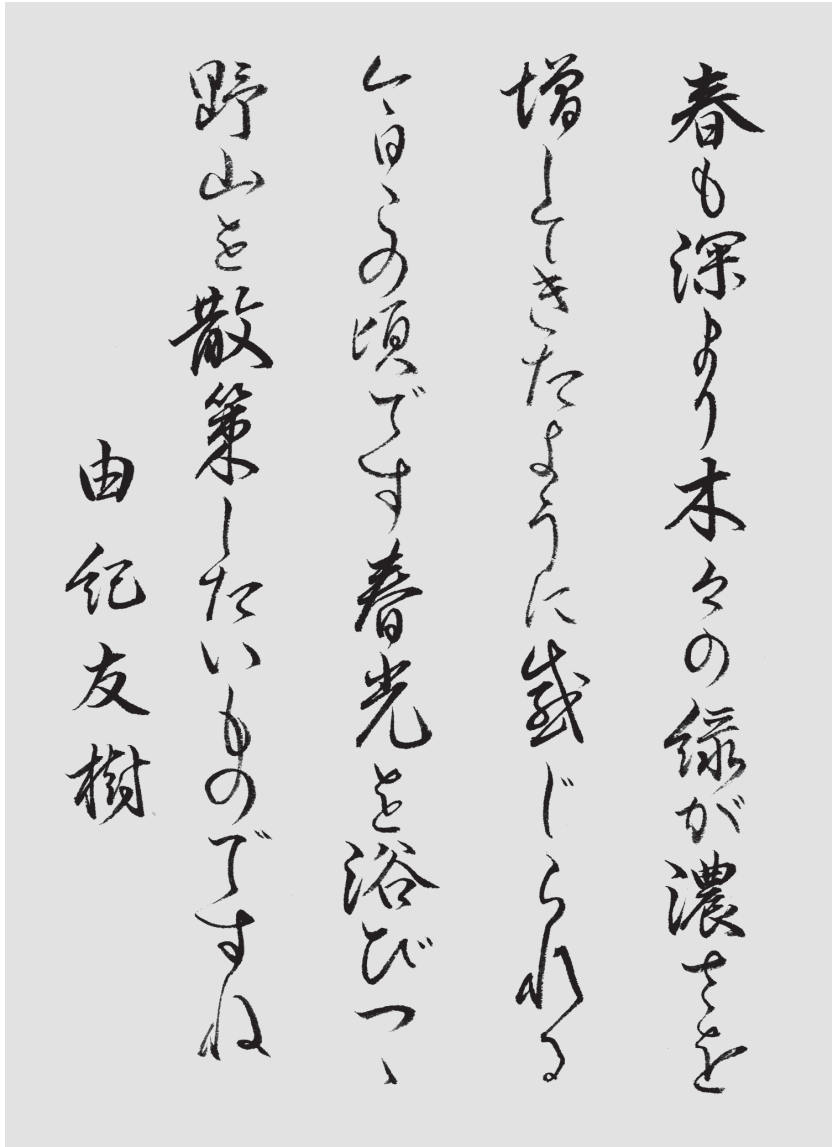
室町幕府の最盛期を象徴している  
金閣寺は、足利義満の造営です。  
山口県長門市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。



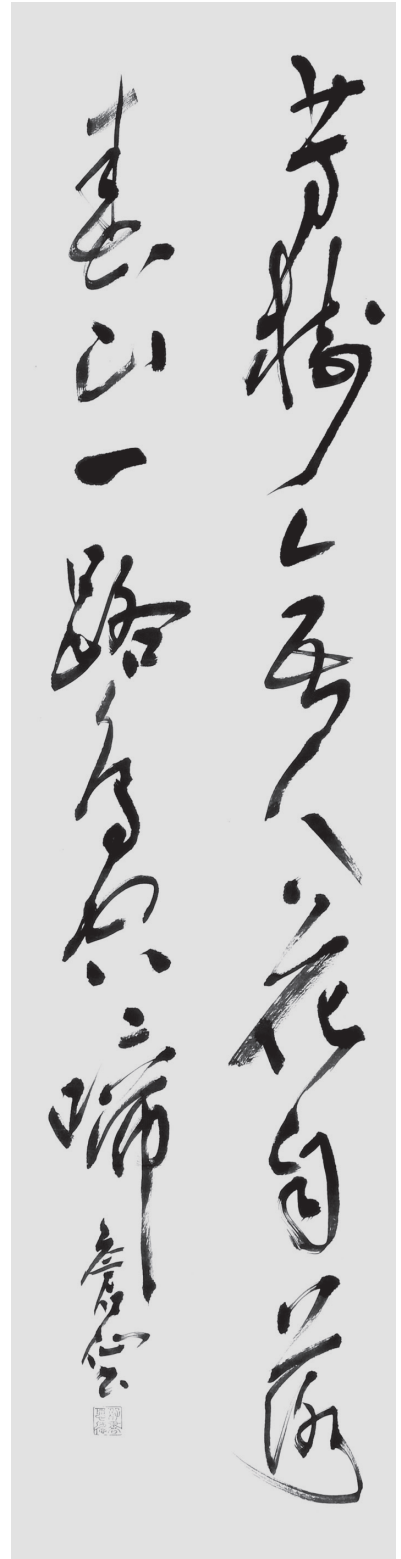
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

伊藤梅香書



締切り 四月二十一日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙書

芳樹無人花自落

春山一路鳥空啼

李華

〔大意〕 芳しい樹の花は人の知らぬ間におのずと落ち、春の山の一筋の路に鳥は空しく啼いている。  
初出品の方へ  
支部名・会員番号・  
姓名・毛筆漢字成績  
を、作品左下に必ず  
お書き下さい。

〔条幅解説〕

一字一字丁寧に書くのはよい事ですが、反面気脈が切れてリズム感のない作になりがちです。ホームランもリズムが大切といわれるように、リズムは特に大切です。その為に、エンピツで何度も書いて形を覚え、二字か三字は手本を見なくても書けるように努力して下さい。

春も深まり木々の緑が濃さを増してきたように感じられる  
今日この頃です 春光を浴びつ、  
野山を散策したいものです  
(ご自分の氏名)  
・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)



池春芳草合

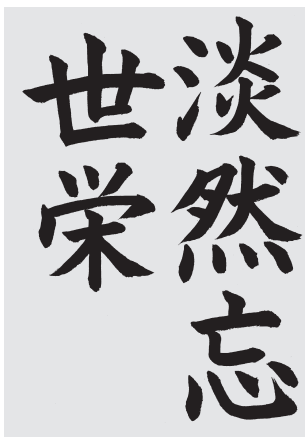
〔大意〕春、池のまわりに見事に咲く瑞々しい若草の香りがいい。

澤 幸 寿 書

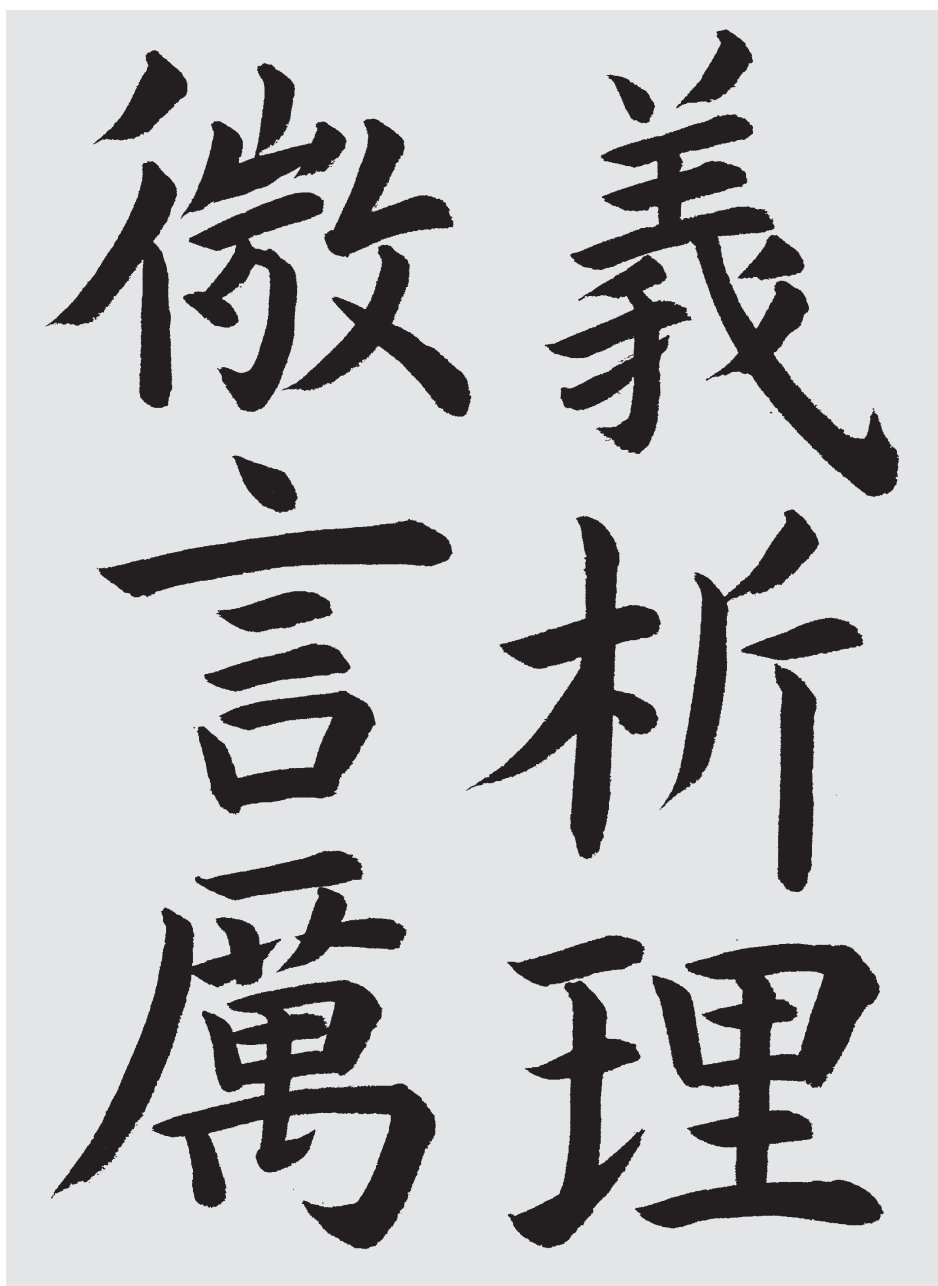
〔解説〕



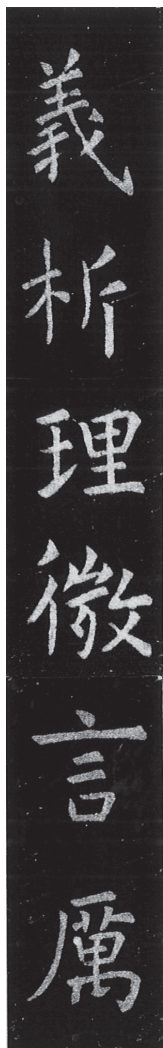
◆5月課題予告(楷書)



準初段から師範まで



須田一葉臨



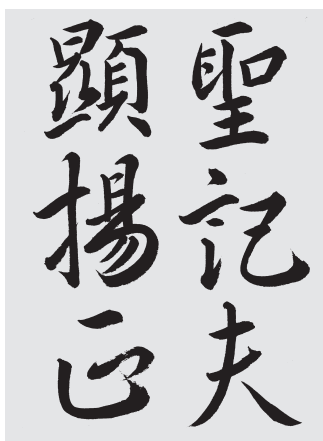
義  
析  
理  
微  
言  
厲

〔出典〕孔子廟堂碑（六二六～六三三）  
 〔筆者〕虞世南（五五八～六三八）  
 〔読み〕（妙）義、析理の微言は、厲するに（四科を以ってし）

〔解説〕



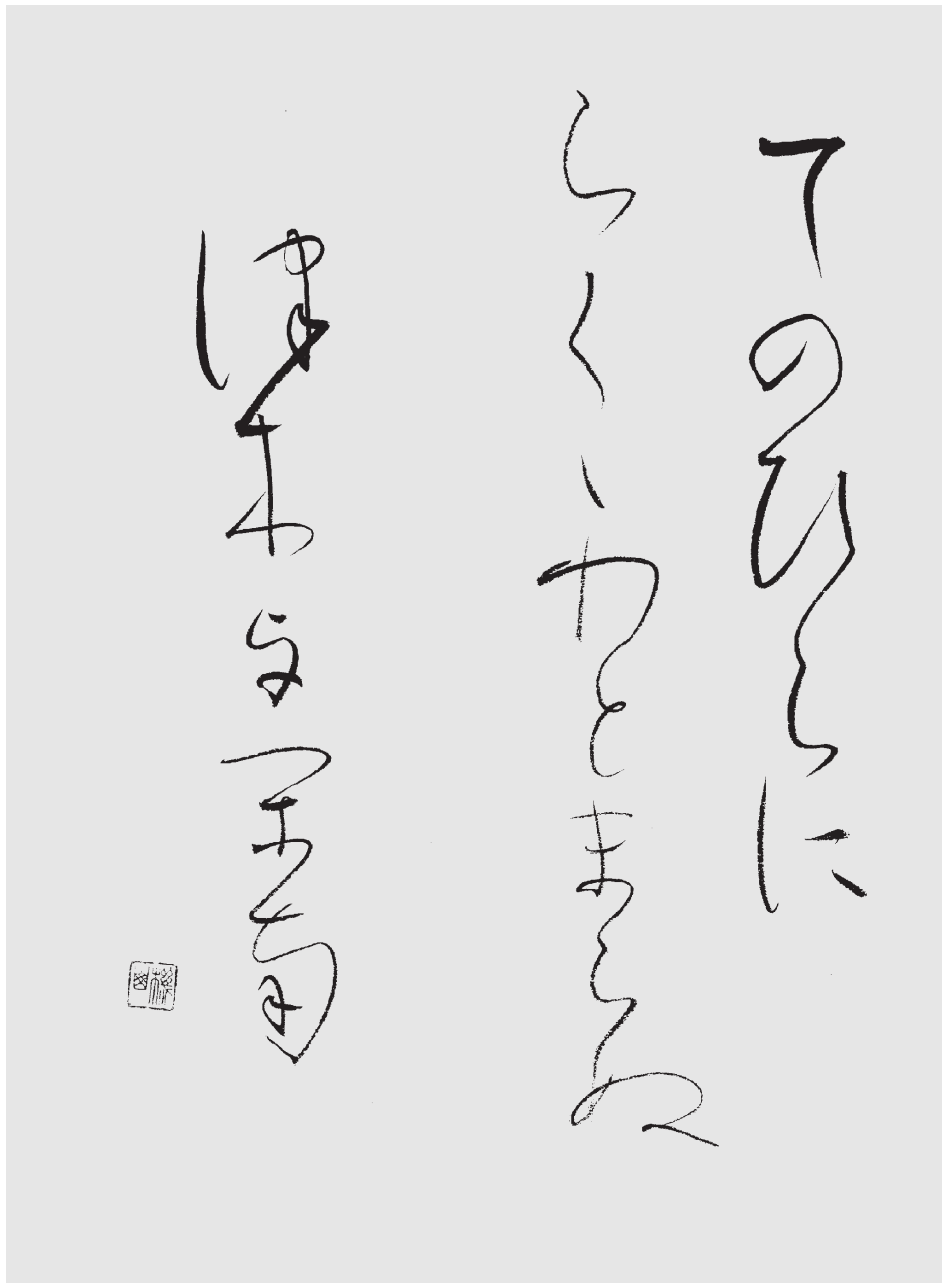
◆5月課題予告  
 ※文献によって字体が異なる場合があります。





新入から1級まで

浅井機山先生書



てのひらに落花とまらぬ月夜かな  
津木与閑南  
わたなへすきは  
渡辺水巴

〔句意〕

花吹雪の中、作者はふと手を開いてみる。しかし花びらは手に止まらずに風に吹かれて行く。おりから月夜であって、何もかもが美しく感じられる、の意。

◆5月課題予告

玉虫の厨子により見る薄暑かな

〔解説〕

まず全体をみると、上5が、頭を少し開けて書き出し、1字の単体、3字連綿、1字の単体に構成しています。

中7が、単体が3字、2字連綿、3字連綿です。

下5字が、2字連綿、単体、2字連綿で構成しています。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「つらぬ」

「つ」は、しっかり突いて(蔵鋒)、そのバネを逃さないように力強くグイッと右へ引きます。その場合、1↓2(遅↓速)と一気に引かず2段階に引くと、より力強い線を引くことができます。

「いく、わたまらぬ」

ここでは、右へ湾曲する線を注視していきます。「わ」の大きな湾曲、「ま」は小さな湾曲、「ら」は湾曲と言えないほどの回り方、「ぬ」は大きな湾曲で、これらだけ抜き書きしてみると、湾曲だけでも1つのリズムが出来、上下に並べると視覚的にもリズムとなっています。

「津木与閑南」

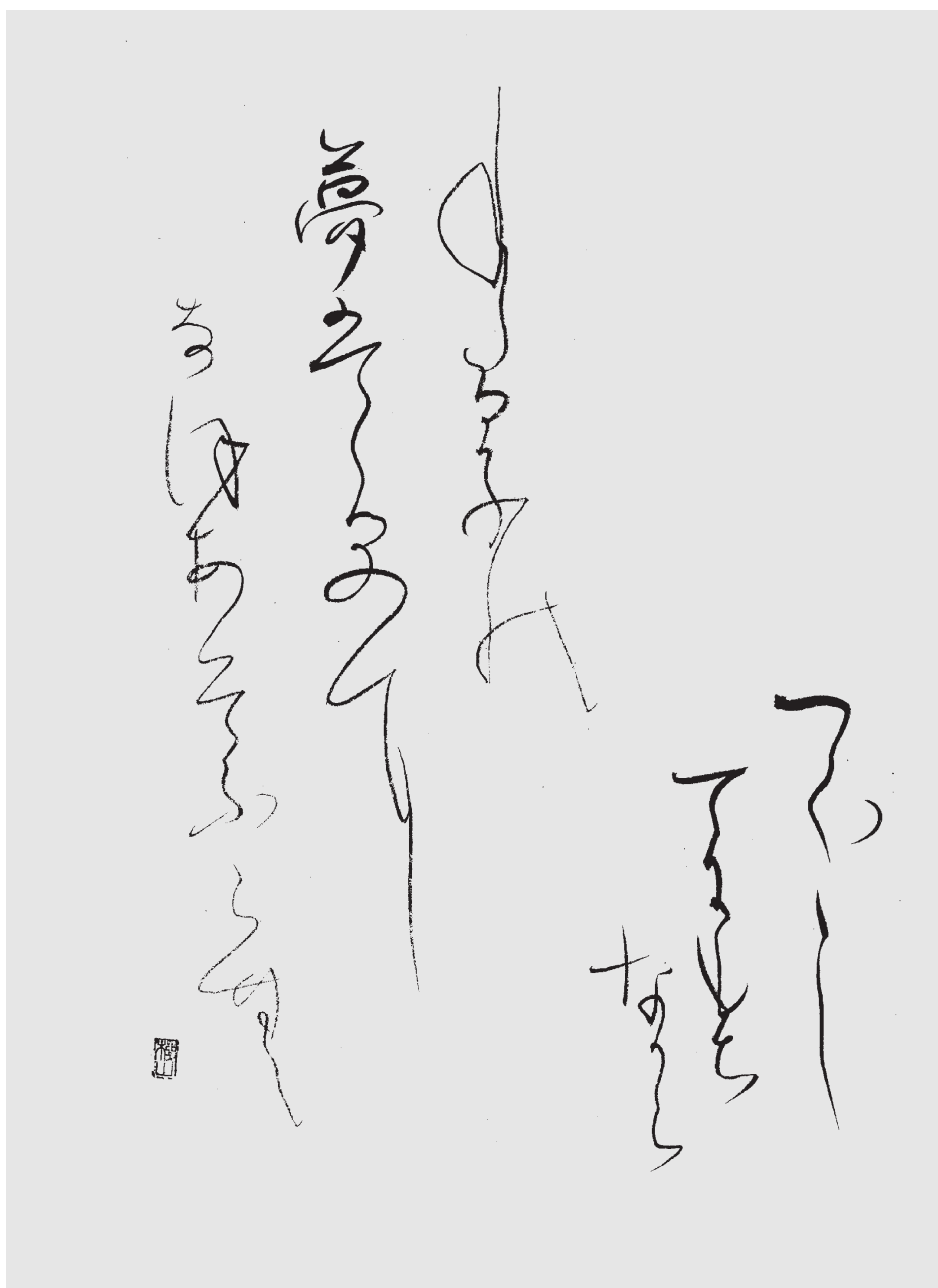
右の行との〈間〉を広めにとって書き、5字とも変体仮名で書いています。

「津」は、大きく偏と傍の間の懐は広くとってゆったり大きく書きます。

「木」への連綿線は太く力強い。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



つくづくし手にもちながらねたる子の能

夢は春野になほあそぶらむ

落合直文

〔歌意〕

摘んできた土筆を手を持ったまま眠ってしまった子が見ている夢は、昼間土筆摘みに遊んだ春の野原に今も遊んでいるのであろう。

◆5月課題予告

五月待つ花橘の香をかげば昔の人の袖の香ぞする

〔解説〕

まず全体を見ると、上に余白を大きく取って、3行を書き出しています。右に2行と左に1行を墨量多くして配置しています。

第4行、第5行、第6行は、上から漸減して行頭を下げていきます。柱になる長い行ではありません。

それぞれ、行間に微妙に広狭の変化があります。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「つくづくし」

「く」(畳字)の書き方は「く」の右に1つ、下に1つ書いて「つくづく」として書きます。下に2つ「く」を書いて繰り返し記号にする場合もあります。

「て尔もち」

少し下げて「て」を書き出し、「な可ら」

右より行間を狭くして書き出し、3行を安定させて書きおさめます。

「年多る子能」

墨量が少なくなり、「能」では極限までかすれる墨量で右余白を受け入れます。

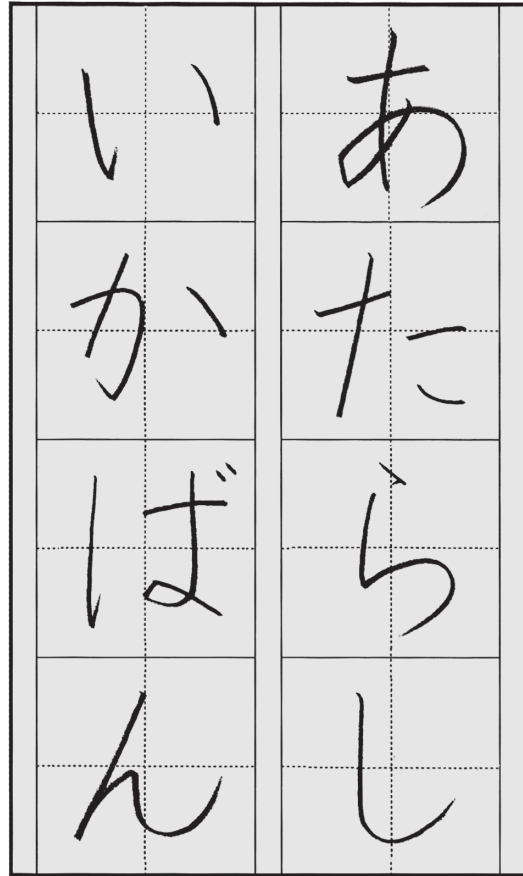
「夢盤ゝるの耳」

墨継ぎして、作品のメインになる「夢盤」をゆったり大きく、「耳」は上を受けて軽やかに伸びのび余白へ突き進みます。

「奈保あそぶら無」

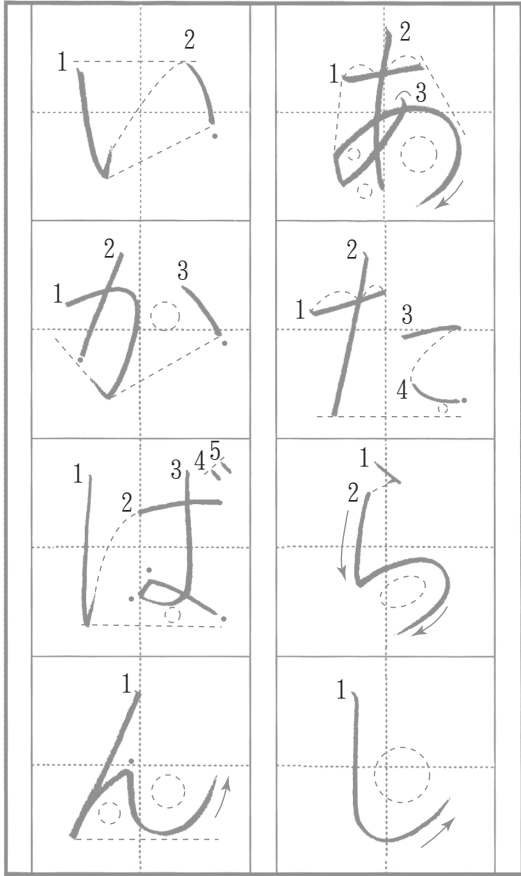
小さく「奈」を書いて、右の「夢盤」を浮き立たせます。

よ  
う  
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

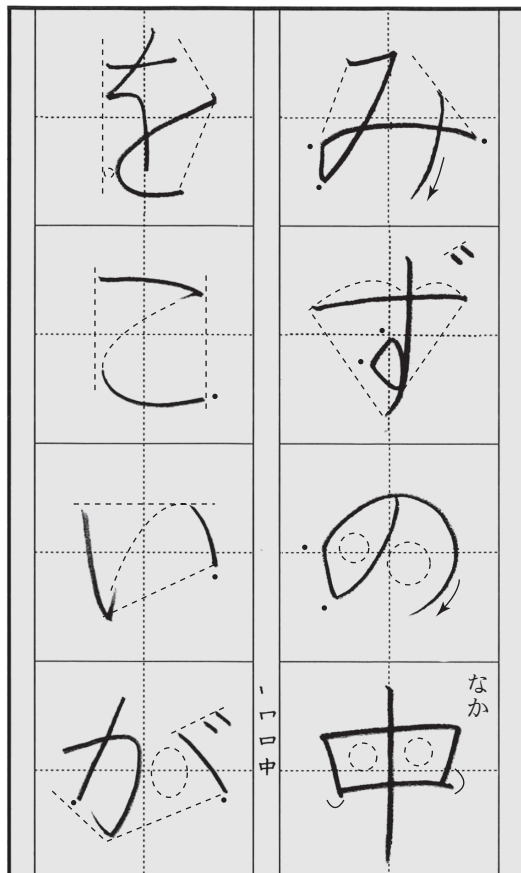
新  
小  
一  
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準  
初  
段  
以  
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで  
三宅容玉書

新小二年

|   |   |   |
|---|---|---|
| で | サ | 大 |
| 見 | イ | き |
| れ | を | な |
| た | 近 | 角 |
| よ | く | の |

準初段以上

新小三年

|   |   |   |
|---|---|---|
| が | か | 部 |
| 入 | ら | 屋 |
| り | 日 | の |
| ま | の | ま |
| す | 光 | と |

準初段以上

新入1級

|   |   |
|---|---|
| の | 大 |
| サ | き |
| イ | な |
| を | 角 |

一ナ大  
おお  
この  
アア角角角

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

※部屋||単語としてこのように読みます。

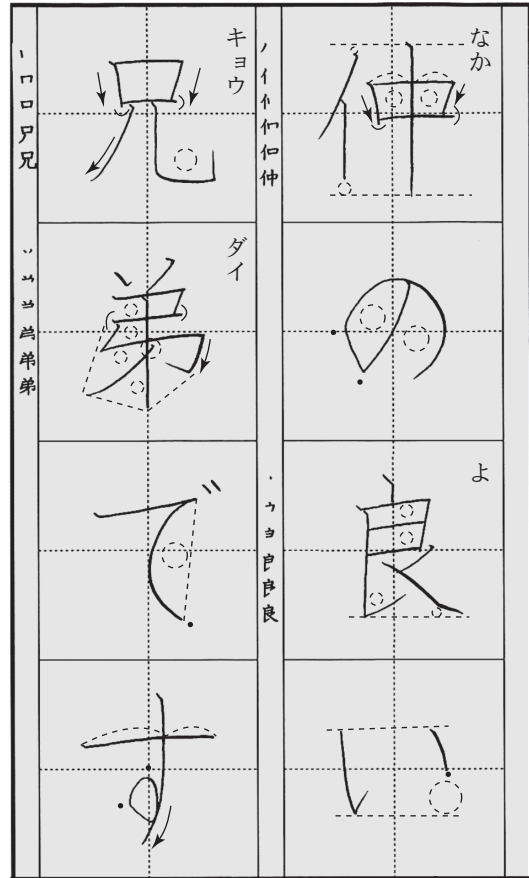
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入1級

|   |   |
|---|---|
| と | 部 |
| 日 | 屋 |
| 光 | の |
| が | ま |

ト音部  
二ツ  
コウ  
戸屋屋屋屋  
一 日 日  
一 光 光 光

新小四年



(全員)

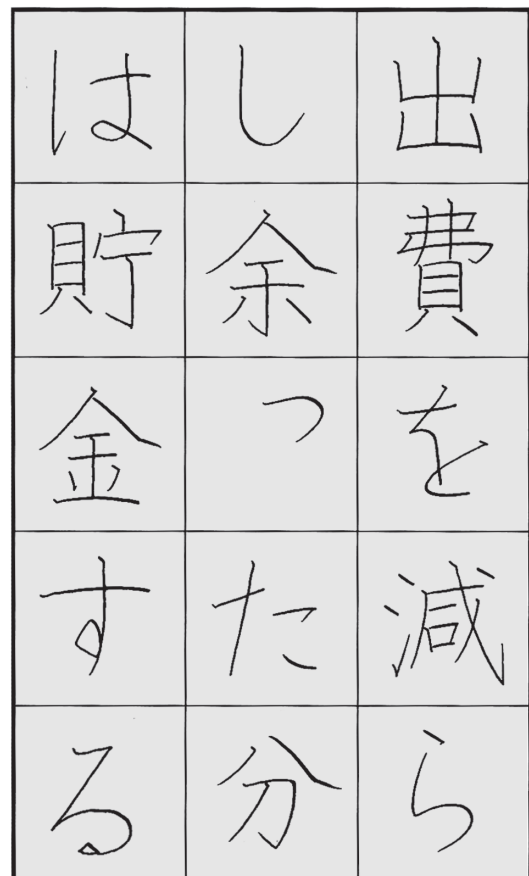
新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- \* 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- \* 六月締切り分までは、この方法が続けます。
- \* ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。
- \* 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

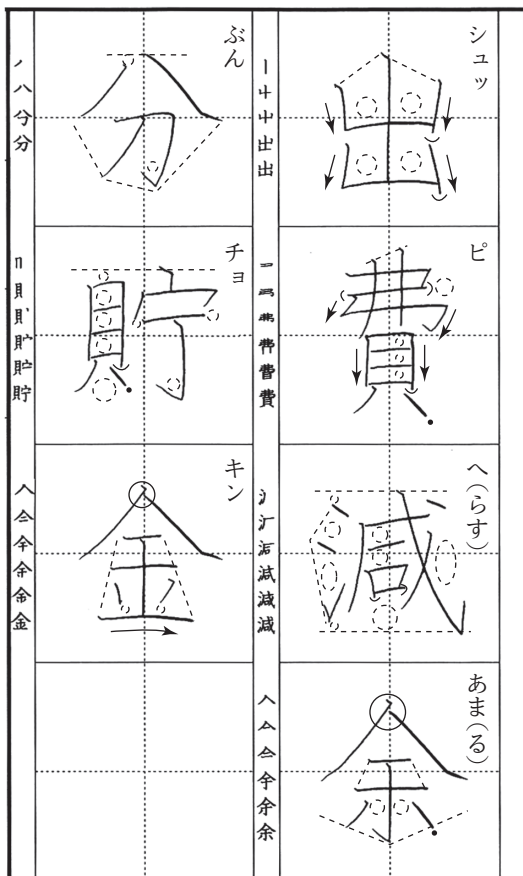
新小五年



(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)



小四年以上 岡嶋桂川書

〈用具〉自由(黒色に限る)

|           |          |
|-----------|----------|
| シ<br>師    | シヨウ<br>将 |
| シ<br>資    | ライ<br>来  |
| カク<br>格   | チヨウ<br>調 |
| と(る)<br>取 | リ<br>理   |

解説(よく見て習いましょう)

|   |   |   |
|---|---|---|
| 取 | 師 | 将 |
| り | の | 来 |
| た | 資 | は |
| い | 格 | 調 |
| な | を | 理 |

新小六年

(全員)

|   |   |   |
|---|---|---|
| い | て | 視 |
| 換 | 眼 | 力 |
| え | 鏡 | 測 |
| ま | を | 定 |
| す | 買 | し |

新中二・三年

(行書)

|   |   |   |
|---|---|---|
| 学 | ら | 先 |
| 校 | 受 | 輩 |
| の | け | た |
| 伝 | 継 | ち |
| 統 | ぐ | か |

新中一年

(行書)



▼小三年以下の課題 まつ 松 うら 浦 しゅう 秋 きん 琴 書

|   |                 |                |                 |                 |
|---|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|
|   |                 |                |                 |                 |
| お | 正 <sup>ただ</sup> | 書 <sup>か</sup> | 漢 <sup>かん</sup> | 新 <sup>あた</sup> |
| ぼ | し               | き              | 字 <sup>じ</sup>  | し               |
| え | く               | じ              | の               | く               |
| ま |                 | ゆ              |                 | 習 <sup>なら</sup> |
| す |                 | ん              |                 | う               |
|   |                 | を              |                 |                 |
|   |                 |                |                 |                 |
|   |                 |                |                 |                 |
|   |                 |                |                 |                 |

◎お手本はえんぴつ使用



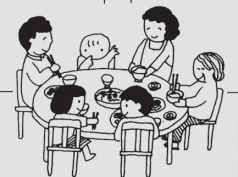
しめきり 4月21日(必着)

習っていない漢字は  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 やす 保 だ 田 すい 翠 えん 苑 書

|                  |                  |                  |                 |                  |
|------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|
|                  |                  |                  |                 |                  |
| 住 <sup>じゅう</sup> | 衣 <sup>い</sup>   | 基 <sup>き</sup>   | 生 <sup>せい</sup> | 衣 <sup>い</sup>   |
| 居 <sup>きょ</sup>  | 服 <sup>ふく</sup>  | 礎 <sup>そ</sup>   | 活 <sup>かつ</sup> | 食 <sup>しょく</sup> |
| の                | ・                | と                | の               | 住 <sup>じゅう</sup> |
| こ                | 食 <sup>しょく</sup> | な                | 最 <sup>も</sup>  | と                |
| と                | 物 <sup>もつ</sup>  | る                | も               | は                |
| で                |                  | 条 <sup>じょう</sup> |                 |                  |
| す                |                  | 件 <sup>けん</sup>  |                 |                  |
|                  |                  |                  |                 |                  |
|                  |                  |                  |                 |                  |

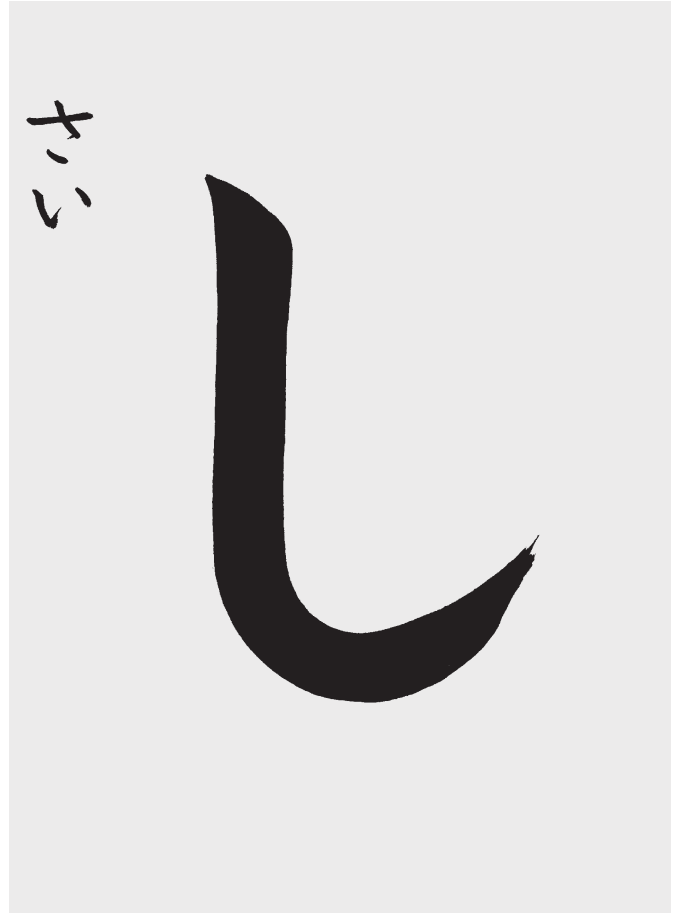
◎お手本はつけペン使用



◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年く小二年  
酒さか  
井い  
智ち  
仔こ  
書



小五  
貯金

小三  
日光

弟

日

貯

光

金

兄

小四  
兄弟

小三〜小五年

水野碧友書

中二・三

眼鏡

小六

資格

小六〜中二・三年

玉樹小華書

統

資

中一

伝統

眼

格

鏡

伝

※行書では画のつながりに注意しよう。